

整理番号：6－2

提言題名：双葉地区における大規模浸水被害再発防止に向けた事前土嚢水嚢設置計画検討のお願い

【提言要旨】

双葉地区では令和5年6月に数百世帯が床上・床下浸水の被害を受け、私の自宅も床上浸水いたしました。令和6年・7年は幸い大きな被害はありませんでしたが、今年で被災から3年目となり、再び同規模の降雨があった場合の浸水を強く不安に感じております。

市が対策として挙げている排水ポンプ車について、排水能力が30?60?/分であると伺いました。一方、新川第一・第二機場の合計排水能力は440?/分であり、令和5年6月は機場が稼働していたにもかかわらず多数の家屋が浸水しました。このため、ポンプ車を1台追加しても、同規模の降雨時に家屋浸水を防げるのか疑問を抱いております。

市は他の対策として「土嚢・水嚢の設置」を挙げています。令和6年3月の市への提言への回答でも、排水対策課より「外部からの水の浸入が想定される箇所には、事前に土のうの積み上げや水嚢を設置する」とありました。

しかし、今年(令和8年)2月に市へ確認したところ、具体的な水の浸入箇所の特定や必要土嚢数の試算などがまだ十分に検討されていない印象を受けました。令和8年3月議会での答弁でも「大雨予報が出た時点で設置の検討を始める」とされており、これでは迅速な対応が難しいのではないかと危惧しております。

令和5年6月の水害では、明け方に急激な水の流入と地内の急激な水位上昇があり、その後雨が弱まってからも水位が上昇し、最も浸水水位が高くなったのは夜8時過ぎでした。このような水流の特性を踏まえると、平時から以下の点を事前に検討しておくことが、家屋浸水防止に不可欠ではないかと考えます。

- ・双葉内への水の浸入が想定される具体的な箇所の特定
- ・必要な土嚢・水嚢の設置位置の確認
- ・降雨規模に応じた土嚢・水嚢設置数の試算
- ・実際の設置手順や体制の事前準備

双葉地区の住民として、再び同じ被害を繰り返さないためにも、どうか早期の検討と具体的な対策の実施をお願い申し上げます。

(令和8年4月受付)

【回答要旨】

現在、双葉地区の豪雨対策として、双葉地区東側では国道6号側にある市道(双葉緑道)沿いに圃場からの溢水を防ぐ目的で双葉緑道に3か所、土嚢及び止水板の

事前設置を実施しております。また、双葉地区西側においては、農業用水路からの溢水を防ぐ目的で2か所土嚢及び止水板の設置を実施してきたところです。また、消防本部とも連携し、水のうやタイガーダムなどの準備も進めております。

昨年度、勘兵エ堀排水路及び大夫落排水路からの越水による冠水被害に対し、越水対策として、福岡堰土地改良区による排水路の嵩上げ工事を実施しております。このことにより双葉地区内への越水被害は軽減されることと考えております。

また、管理課にて双葉地区の浸水センサーの設置、農政課にて排水路の監視カメラによるリアルタイムの排水路の水位確認や新川排水機場の自動運転化の整備などを行って参りました。

今後とも雨水対策など状況に応じた対策を検討していきたいと思っております。

(排水対策課 令和8年4月回答)